

日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 IMA分科会

更新日 2012/6/12

(2009/05/01の形式)

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際鉱物学連合

(欧文) International Mineralogical Association

(略称) IMA

日本学術会議加入年(西暦) 1958 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) The council of International Mineralogical Association

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Prof. E. Tillmans	Prof. Walter Maresc	Dr. Sabine Verryn	Prof. Richard Goed
(国)	オーストリア	ドイツ	南アフリカ	オーストリア

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

役員(The Council、Officers)の任期は4年である。カウンシルミーティングにおける選挙によって候補者が選定され、IMA総会において承認される。

加入国・地域の数 38 ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

日本, 米国, イギリス, フランス, ドイツ, ロシア, 中国, カナダ, 韓国, インド

国際学術団体のホームページURL

<http://www.ima-mineralogy.org/>

国際学術団体の年間運営経費

105,000 USD

日本の分担予定額[事務局で記入]

39千円(2012年度)

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
平成22年 (2010年)	国際鉱物学連合第20 回総会	ブダペスト(ハンガ リー)	1620	150	有
平成18年 (2006年)	国際鉱物学連合第19 回総会	神戸(日本)	953	573	有
平成14年 (2002年)	国際鉱物学連合第18 回総会	エジンバラ(イギリス)	798	79	無
平成10年 (1998年)	国際鉱物学連合第17 回総会	トロント(カナダ)	654	40	無

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2012年	IMA council meeting	フランクフルト (EMU会議)	20	山中高光 (前会長)	1
2010年	IMA general assembly(総会)	ブダペスト(Danube Riverside Campus of the Eötvös University)	20	山中高光・ 大谷栄治	2
2009年	IMA council meeting	ダボス(コングレスセ ンター)	20	山中高光	0
2008年	IMA buisness meeting	バンクーバー(UBC)	20	山中高光・ 大谷栄治	0
2008年	IMA-CPM comission meeting	オスロ(コンベンション センター)	10	大谷栄治	0
2006年	IMA council meeting	神戸(コンベンションセ ンター)	20	山中高光	0

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

定期的(年 5 回) 主な出版物名 Elements 不定期的(3 回) 主な出版物名 World Directory of Mineralogists

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

国際機関等の提唱で行った活動
国際地球年への活動を行っている。IUGSの提唱をうけて、国際地質科学会議(IGC)の企画に参加し、シンポジウム等を組織している。第33回のIGC(2008)においても組織委員会に参加している。2006年に神戸において第19回国際鉱物学連合総会を開催した。
国際機関等への提言等
年間の活動成果と次年の活動計画を取りまとめWEBで公開するとともに、その中で鉱物科学振興策を提言している。鉱物科学会に働きかけElementsの購読を実現した。Elementsの2012年4月号に我が国の活動を報告し、対外発信を行った。
国際事業等への参加・実施等
IMAのコミッションのレベルで、国際協力事業に参加している。IMAのCAMはICAMと共同し、IGCP486の活動を行っている。国際会議Mineralogy & Museum(M&M)8(2016年開催)の日本への招致活動を開始した。。
全世界的/地域的研究課題への取組み
・ユネスコの国際地球年の活動に参加している。
発展途上国への対応
アフリカなどの開発途上国に対して、IMAへの参加を呼びかけている。第十九回IMA神戸大会において、開発途上国の参加に対して、分担金を年間60US\$から30US\$に下げた。2014年、南アフリカ大会に積極的に協力し、セッション提案を呼びかけている。

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

鉱物物理学、環境および生命起源物質科学、宇宙惑星物質科学分野等において活発な研究活動が行われており、今後においても重要課題となっている。
--

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
IMA-鉱物物理学委員会 委員長	大谷 栄治	2008	2012
IMA-結晶成長学委員会 委員長	塚本 勝男	2008	2012
IMA-環境鉱物学委員会 委員長	佐藤 努	2010	2014
IMA-鉱物相平衡WG 副委員長	赤荻 正樹	2000	2008
IMA-Past president 前会長	山中 高光	2010	2012

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名

I M A 分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

特になし。

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本鉱物科学会	1050	http://wwwsoc.nii.ac.jp/jams3/
資源地質学会	850	http://www.kt.rim.or.jp/~srg/
日本結晶成長学会	800	http://wwwsoc.nii.ac.jp/jacg/
日本粘土学会	410	http://wwwsoc.nii.ac.jp/cssj2/

学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名
所属分野別委員会

IMA分科会
地球惑星科学委員会

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事
天谷 栄治	坂本 尚義	佐藤 努

会員数	連携会員数	特任連携会員数
1	6	2

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

国際鉱物学連合(IMA)の各コミッションの活動状況の調査、次年度の活動計画の策定、日本代表委員選任、会議への代表の派遣などを行う。関連する国際会議において日本の科学を発信する方策を検討し、国際的に活躍できる若手育成の方策を検討する。

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2112/5/22	1. 今期のIMA分科会の体制を決定した。新たなメンバー二名を迎えた。IMA日本代表委員を現在の山中高光教授から大谷栄治 IMA分科会委員長に交代することが本分科会で承認した。この変更手続きを山中特任連携会員が IMA事務局の連絡。国際会議Mineralogy & Museum(M&M)8(2016年開催)の日本への招致を進める。南アフリカにおいて開催の2014年 IMAへのセッションのプロポーザルを行う。フランクフルトにおけるbusiness meetingへの方針を議論した。地球物質科学の振興策を議論した。
2011/5/23	1. 今後のIMAへ体制について: IMAの日本代表委員を山中高光前IMA会長から大谷栄治 IMA分科会委員長への交代を行うこととした。IMA事務局に連絡することとする。2年後に向けて、IMA councilおよび各commissionにおける日本委員の対応についての検討を開始する。2. 鉱物科学(地球惑星物質科学)の振興と対外発信の現状について、情報交換。
2010/5/23	1. 各コミッションからの報告。CPMでは、幾つかのSub-commissionを作ることを検討中。2. 2016年に予定されている国際会議M&M(International conference on Mineral and Museum)の日本招致について議論した。3. 地球惑星物質科学(鉱物科学)の振興と対外発信の現状について、意見交換。
2009/12/3	1. 国際会議M&M(International conference on Mineral and Museum)の日本招致を検討、方針を検討。2. 22年度の代表派遣旅費の申請について議論、候補者を決定。3. 4. 鉱物科学(地球惑星物質科学)の振興と対外発信の現状について、情報交換。
2009/9/7	第二回IMA分科会: 1. IMAのコミッションとワーキンググループの日本委員の交代についての確認。2. 活動計画を紹介。2010 IMA Budapestでのセッション提案を確認、出席を呼びかけ。3. 2016年に予定されている国際会議M&M(International conference on Mineral and Museum)の日本招致を検討。6. 地球惑星物質科学(鉱物科学)の振興と対外発信の現状について、意見交換。
2009/5/17	第一回IMA分科会: 1. IMA分科会の活動内容について。2. IMA分科会の特任連携会員について。3. 当面の分科会の活動についての提案。

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

1. Elementsへの対応：IMA分科会として、Elementsの購読を鉱物科学会に提案し実現した。2. 開催予定の国際会議について：2016M&Mについて、2012年のM&Mの年会で日本招致を提案することとした。鉱物科学会において博物館委員会の設置を実現した。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

IMA分科会委員およびオブザーバーを通じて、審議状況を関連学会（日本鉱物科学会、資源地質学会、日本結晶成長学会、日本粘土学会）に連絡している。日本地球惑星科学連合および鉱物科学会のWEB Siteで議事録を公開している。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

継続的に国際的な発信を強化するとともにIMAカウンスルおよびコミッションにおいて、鉱物科学の振興と我が国のIMAの活動に、日本学術会議の果たしている役割の周知に努めている。

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

分科会を年2回のペースで行ってきた。この間、メンバーの追加等、IMAコミッション日本委員の若返りを図った。国内的には、より活発な活動が始まった。この点は評価できる。今後、国際的な活動をより活性化すべき。21期から分科会となった。IMAの活性化とともに、広く関連分野の日本の成果を効果的に発信する手立てを議論したい。また、積極的に国際的活動を主導できる研究者の育成に努める。地球の物質科学の設備共同利用などについても議論を検討中。日本の国際活動を強化するために、IMAのコミッションにおいて、日本からの委員を増加させた。Elementsの購読を実現し、この雑誌を通して、対外発信を強化した点は評価できる。また、Mineralogy & museumの日本招致活動を行っていることも評価してよい。